

帰化植物「セイタカアワダチソウ」

(学名: *Solidago altissima*) [キク科 アキノキリンソウ属]



▲群生するセイタカアワダチソウ

セイタカアワダチソウは10月～11月中旬頃まで花を咲かせます。町内でも他の植物が枯れた後、鮮やかな黄色の花穂をつける植物です。名前は知らずとも、皆さんも目にしたことがあるのではないのでしょうか。

もともとは北アメリカの原産で、明治時代に切り花用として持ち込まれたそうです。遅くまで花が咲いていることから養蜂にも利用されていたようです。

同じ時期に帰化したブタクサと混同され、秋の花粉症や気管支喘息の原因とされましたが、今では、セイタカアワダチソウはそれらの疾患とは無関係とされています。

北アメリカではゴールデンロッドと呼ばれ、親しまれていて、いくつかの州では州花ともされています。また、ハーブや生薬としても利用されてきました。日本でもすだれの材料として利用することがあります。

数十年前から、日本ではセイタカアワダチソウが、河川の土手や、休耕地、空き地などに繁茂している姿をよく見かけます。田畑に化学肥料を使用するようになったことと、この爆発的な繁茂は、関係があると考えられています。なかなか駆逐できず、在来種と置き換わってしまうことが問題視されています。

いったん日本に入ってしまった外来種について、その植物の有用性ととも、どんな生育地を好むのか、人の活動にどのような影響をうけるのかなどを知ることが、今後の付き合い方として大切になっていくのではないのでしょうか。

企画展示

「カゴ編みを受け継ぐ人々 ～只見町とボルネオ島と」

期 間：2016年10月15日(土)から

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

問い合わせ先：只見町ブナセンター 電話 0241-72-8355

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください